

市民と市長の対話集会

第30回

タウンミーティング記録集



平成22年3月20日(土曜日)

会場 萩山公民館

時間 午前10時～正午

東村山市

○開催内容

平成22年3月20日(土)午前10時、萩山公民館におきまして「第30回タウンミーティング」を開催しました。約30名の方にご参加いただき、ご意見をうかがいました。

●会場アンケート結果(住所地・年齢・性別について)

アンケート用紙は会場入り口で配付し、うち26枚を回収しました。

・アンケート回答者の住所地

萩山町	22人
恩多町	3人
本町	1人
合計	26人

・年齢

20代	0人
30代	2人
40代	4人
50代	0人
60代	3人
70代	12人
80代以上	5人
合計	26人

・性別

男性	22人
女性	4人
合計	26人

○開催情報

●対象 市民の方(在勤・在学の方含む)

●申込み 申込みは不要です。当日、直接会場にお越しください。

(手話通訳者が必要な方は、開催日の2週間前までにご連絡ください)

連絡先: 東村山市役所 市民協働課 電話/(393)5111 代表 fax/(393)6846

	開催日	会場	時間
第31回	平成22年4月17日(土)	廻田集会所	午前10時~正午
第32回	平成22年5月16日(日)	富士見公民館	
第33回	平成22年6月26日(土)	多磨全生園	午後1時~3時

○第30回タウンミーティング記録（概要）

会場での発言内容は紙面の都合上、要旨を記録しております。

【市長あいさつ】

皆さん、おはようございます。今日は3連休の初日また大変素晴らしい天気で、お出かけ日和と思っていたのですが、多くの市民の皆さんにご出席いただき、誠にありがとうございます。

市民の皆さんと私の対話集会「タウンミーティング」は、平成19年に行われた市長選挙の、公約のひとつで、その年の10月から始め今日で30回目を迎えることができました。大変数多くの市民の皆さんにご出席いただき、日頃感じておられる課題・問題をご指摘いただくと共にご意見やご要望を承って、少しずつですが、市政に反映させてきたつもりです。

萩山町では3回目を迎え、今日の司会は萩山町福祉協力員のMさんをお願いをしています。萩山町の福祉協力員の皆さんには、活発に活動していただいて有難いと思っています。

市は一昨日、議会の予算特別委員会で22年度予算案をご議決いただきました。予算は総額で一般会計が460億5千2百万円で、前年に比べ約28億円、率にして6.6%程規模が大きくなっています。ただ、この規模が大きくなっているのは、税収が増えたわけではなく、国の子ども手当での予算を含めている関係で、6.6%も伸びています。実際は一昨年からのリーマンショック、昨年のドバイショック等々で、日本経済が非常に厳しい状態で、東村山市民の方の所得も落ちているのが実態です。市民の皆さんからお預かりさせていただいている市税については、200億1千300万円で昨年と比べると約7億円落ちているのが実情です。市民の皆さんの生活も大変だということですし、それに連動し市の財政も非常に厳しい状況が続いています。

しかし、久米川駅北口広場整備事業と東村山駅西口整備事業が今年度で一段落着くということで、これから東村山のみならず日本を背負って立つ子ども達の施策を少し充実させようと、22年度については小学校4校、中学校3校、計7校を萩山地区の3中も含め耐震補強工事をさせていただきます。それから、全国的に保育園に子どもを預けたくても入れない待機児童が大量に出ており、東村山市もそういう状況です。今年、市役所の東北側の新しくできた住宅地の一角に、保育園と通所型高齢介護施設を合築した施設を市内の社会福祉法人の村山苑に造っていただく予定で、市も補助金を出す予算組みをしています。それから、認証保育所と認定こども園を1箇所ずつ開園するよう予算を立てています。また小学生で児童クラブに入りたくても入れないお子さんも大量に出ており、21年度は萩山の児童クラブを建替え、また第2クラブを造り、萩山の児童クラブは今年全員入所できたところです。22年度については、東萩山小学校の児童クラブを含め計5校で児童クラブの増築、建て替え等を行い児童クラブの待機児解消も図っていこうということです。

22年度の予算については、これから未来を担う子どもたちへの施策を重点的に予算組みさせていただいたところです。

東村山市も大変厳しい財政環境ですが、一步一步着実に、ハード面のまちづくり、子育て施策、さらには高齢介護施策等の充実を図るよう、頑張っているところです。

今日は皆さんから、日頃感じておられることについて忌憚のないご意見をいただき、限られた時間ではありますが、お答えさせていただきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

【会場でのご意見】

*以下は発言要旨を記録し、個人名は伏せさせていただきました。

防災防犯 ～これからも住み続けたい快適で安全なまち～ について

◆災害時の要援護者対策 ◆散歩道のトイレ整備を (萩山町 Sさん)

私は視覚障害者で、そういった団体の責任者もやっている。2つ質問させていただきたい。

- ① 災害時の要援護者対策について、東村山市の現状はどうなっているのか。
- ② 私は町の中を歩くのが好きだが、その際トイレがどこにあるのかということが気になる。東京都では、高齢者の健康増進のために福祉のまちづくりで、一定距離ごとにトイレを設け、高齢者や障害者等が利用しやすいように設備を整えるように指針が出ていると聞いている。ぜひ東村山でも進めていただきたい。例えば空堀川沿いや、遊歩道も富士見文化センターの先は武蔵大和の駅までではなく、多くの人が歩くルートにトイレがないのが実情だ。健康保持のためにもそういった施策を進めていただければ大いに助かると思っている

◎ 市長 ◎

災害時の要援護者の関係については、大きな課題で現在整理をしているところです。それと共に年1回行っている震災訓練等で、できるだけそのエリアの高齢施設等と連携し、要援護者の方のご参加を求めているという状況です。これも災害時の場合に弱者ということになりますが、先日初めて、外国籍の市民の方の震災訓練を行わせていただきました。まだ隘路になっているのが、地域の要支援の方のリストを作るということについて、高齢者・障害者の方を含めて、進んでいない実情があります。地域の中で、どこにどういった方が住んでいるのか、そのことをどこまで情報を把握している必要があるのか、この辺はもう少しこれから整理が必要なのかと考えているところです。

民生委員さんは自分の担当されているエリアの支援が必要な方々は把握されていると思いますが、それらの情報を他の方と共有するという点については、個人情報保護の問題でもあり、難しさがあって、その辺については市として明確な方針立てができていないのが実情と思っています。今後30年くらいの間には首都直下型の地震がおこる確率が70%を超えていると言われており、いつ起きてもおかしくない状況です。今日いただいたご意見を踏まえ更に検討して、特に障害をお持ちの方や高齢で一人暮らしの方が安心して暮らせるような仕組みづくりということは、求められておりますので努力していきたいと思っています。

それから、トイレについては、市が新たに公園や駅前広場等を整備する場合には極力トイレの設置をしているところですが、ご指摘のあった空堀川やサイクリングロード、水道道路からさらに西については確かにございません。これらは管理が東京都ということになります。沿道に適切な市有地があれば設置することが可能ですが、なかなか具体的に今すぐには思い浮かびません。東京都と協議をしていきたいと思っています。ただ、最近問題になっているのは、久米川駅前の南口のトイレ等は破損や、ものを意図的に詰まらせられたり、先日の予算委員会の中でも話題になったところです。お使いいただく方のモラルアップも同時に図っていくことが大事だと思っているところです。

協力員をしているが、今年度自治会長さん達と防災訓練をしたいと取り組んでいる。防災課職員、社会福祉協議会や協力員の方、各自治会長と話し合いを行ったが、自治会長の方々は忙しく大勢出席してもらえない。ここにいらっしゃる方で一緒にやっていただける方があったら嬉しいと思い提案した。どのようにしたら、実際スムーズに行くのかということも考えていただけたらと思う。

◎ 市長 ◎

市民の方達が自主的に連携し、訓練をしていただけるというのは、大変有難いことだと思います。萩山町の福祉協力員会が活発にご活動いただき有難く、今後とも頑張りたいと思います。

自治会の活性化については、市としてもひとつの課題として受け止めています。自治会というのは市民の皆さんが自主的に作られた地縁的な組織です。いろいろな公共的課題を解決するのに、市役所だけでは当然できないわけで、市民の皆さんが地域の課題に力を合わせて解決していただく、それでも駄目な場合は行政に言っていただくとか、いろいろなケースがあると思います。万が一の場合や、市民の皆さん同士が顔見知りや挨拶を交わしているようなエリアは比較的犯罪が少ないと言われているように、地域の安全安心のためには地域住民の皆さんが連携していただく、そういう意味では自治会の役割は非常に重要ではないかと考えています。しかし昨今市民の皆さんの意識も非常に多様化し、東村山市でも自治会に加入している方というのは全世帯の約6割程度になっています。実は私も市長をする前、議員をしながら自治会の会長をしていました。新たに建ったお宅に勧誘に行きましたが、自治会はどういったメリットがあるのかと言われてしまい、今申し上げたようなことを話しますが、なかなかお入りいただけないというような状況があります。

それと共に東村山市内全域では300程の自治会があり、小さいところは2世帯、大きいところは4,000世帯ありますが、加入率が下がってきていることとか、役員の高齢化で自治会の活動が活発に行われていない等、それぞれ悩みがあるような状況です。タウンミーティングでも、自治会長さんがそれぞれの地域で参加していただきご意見をいただき、行政でも支援してほしいと言われていまして、まずは自治会加入のパンフレットを作り、新たに転入された方々にお配りしている状況です。市から自治会への経済的支援は、防犯街路灯や掲示板の設置について一定の補助、また金額は少ないのですが、防犯防災等や高齢者・障害者の方の見守り活動をされるという場合には申請いただき助成をしていこうという制度もあらたに立ち上げさせていただきました。

2月上旬に、東村山市として初めて自治会フォーラムを中央公民館ホールで行い、非常に活発に活動されている立川市の大山団地自治会の会長さんから、こんな活動をしているというお話をいただきました。その後市内で活動されている自治会長さんや自主防災組織の隊長さん、保健推進員の方、いろいろな方に出会っていただきパネルディスカッションをさせていただきました。大変好評いただき、市内の自治会の役員の方も大勢ご出席いただいて、今後の自分たちの自治会活動のヒントになったというご意見もいただきました。今後も市としても、そういう取り組みをしていきたいと考えています。

市役所としても自治会、NPO 組織、福祉協力員の活動等、市民の皆さんの様々な自主的な活動と連携をしながら、より行政だけでも解決できない、市民だけでも解決できない問題を行政・市民が力を合わせて解決するような、新たな取り組みをどんどん進めていこうということで頑張っていますので、ご理解いただきたいと思います。

◆わが自治会の防災訓練

(萩山町 Nさん)

私のところは久米川病院が自治会に入っている。災害時は、病院は入院患者を入り口まで搬送、あとは自治会がちびっ子広場まで搬送するよう、病院と消防署と自治会と三者で話し合い、年1回防災訓練をしている。自治会でそれぞれ立場が違うがそういう例もある。

◎ 市長 ◎

萩山町は医療施設・福祉施設が多いわけですが、そういう機関と地元の自治会の方が連携していただいて、災害時には支援をするという取り決めをし、平時の場合にも訓練をしていただいているというのは大変心強いことですので、ぜひ継続して頑張ってくださいと思います。

健康・福祉 ～誰もが健やかに暮らせるあたたかいまち～ について

◆薬剤・医療費の抑制

(萩山町 Hさん)

医療費が1割負担で、国保に9割負担してもらっているのは、忸怩たる思いがする。国保の負担が増えれば、自分に跳ね返ってくる。

◎ 市長 ◎

医療費の関係ですが、国保は確かに厳しい財政状態で、21年度については一般会計から国保会計に23億円程、22年度についても20億円を拠出しています。確かに国保は高齢者の方と自営業の方中心の保険ですが、社会保険の方は保険料と税金を支払い、税金のかなりの部分が国保にいていということ、おかしいのではないかと議論はずっとあるわけです。ただ、そういう方々もサラリーマンを定年退職された以降は国保に入るわけなので、一定程度は税で国保会計を維持していくというのは、私としてはやむを得ないことかと思っています。ただ程度問題で当市のような財政が厳しいところで、いくらまで国保に一般会計から繰り入れをするのが妥当なのかということについては、ご議論があるのではないかと思います。

市として考えているのは、できるだけご病気にならないでお元気でいていただく、これは国保だけではなく、介護保険の問題にもつながってきます。市としても病気の予防や介護予防ということに力点を置いた政策を展開しています。その一環として市民の皆さんが自主的にご自身やご家族、あるいは地域の皆さんの健康維持増進を図っていただくということで、市内13町に保健推進制度を作り、様々な情報を市から出して保健推進員の方々に活動していただいています。ただ、これで医療費がどこまで下がるのか、因果関係は明確にはお答えできないところがあります。レセプトの点検については、国保連合会という国民健康保険をやっている自治体の連合組織があり、そこで行っています。数が膨大ですので、どこまで無駄な診療ではないかということをチェックして、病院に確認を取っているのかと言われると、そこは完全ではないかもしれないという思いはしています。いずれにしても、

そこは確認を取らせていただきたいと思います。

市として力を入れ始めているのが、薬はできるだけ、ジェネリックを使っていただくように、お医者さんや市民の皆さんにお願いをしています。国保の運営協議会等には、お医者さん、薬剤師さん、一般市民の方もお入りになって、議論していただいています。お医者さんは、基本的にはあまりジェネリックを使いたくないと仰います。どうしても信頼性に関していまひとつというようなことを仰るケースがあります。薬剤師さんは、かなりの種類を揃えなければならないという問題があります。ジェネリックを作っている会社というのは小さいメーカーが多く、そんなに営業にいつも来るわけではないので、突然患者さんにジェネリックでこの医薬品をくださいと言われても、在庫していないケースも結構あると仰っています。これは1自治体だけで解決する問題ではないと思います。国全体で医療費を押し下げていくという意味では、医療現場のお医者さん、薬剤師の先生方も極力信頼性を確認していただいたうえで、在庫していただく、あるいは薬剤を指定していただくような、国全体での取り組みが必要なのかと感じています。いずれにしても市としても、いろいろ機会にジェネリック薬品を使ってほしいという広報をさせていただいています。医療費の増大、介護保険についても22年度予算規模が80億円に達しています。今日お見えの皆さんには末永くお元気でいただいて、ただただで大変市は助かるということでご理解いただけると有難いと思っています。

◆聴覚障害者の社会参加支援として要約筆記を広めて (恩多町 Sさん)

東村山市にも難聴者・中途失聴の方が多い。難聴者の会の会長をしており、副会長と共にノートテイクで書いてもらい参加している。私たちは、書いてもらうかスクリーンに映してもらわなければわからない。大体こういう方が統計的に人口の5%いるのではないかとされている。聞こえの悪い方にもこういう所に出てこられる状況を作らなくてはいけないとすごく感じる。聞こえないからと言って引きこもり、そのことが体力を落としてしまう。

市報のタウンミーティングの記事には「手話通訳が必要な方は2週間前にご連絡ください」とあるが、「書いてお知らせをする要約筆記制度があるから来てください」と入れてほしい。それが「行こう」という力になり、こういう場に出ることができるので、お願いしたい。

要約筆記制度について、こういう制度ができると最初市報に出たが、そのあと全く出ていない。だから皆さんに聞いても、医者に聞いても、要約筆記って何だ？と言われる。要約筆記制度があるということを是非知らせてほしい。

◎ 市長 ◎

障害をお持ちの方も、できるだけこういう所に出てきていただけるようにしていかなければならないと強く思ったところです。手話通訳については、市報でタウンミーティングのときに事前に申し出いただければ、準備しますということは記載していますが、ご指摘のように要約筆記については全く抜けており配慮が足りませんでした。今後必ず記載をするように指示したいと思います。

それから障害の種類によって、お困りの観点が全く違います。聴覚に障害をお持ちの方は、歩いていても全く健常者と区別が付きません。歩いていて自転車のベルを鳴らされても気付かず、すれ違いざまに怒鳴られたり、そういう不快な事を度々経験されているというお話もよく聞きます。

車椅子の方にとっては、段差があると非常に困りますが、視覚障害者の方には言わせると、段差が無

いと自分がどこを歩いているのかわからない。1度アイマスクをつけて視覚障害者の方と一緒に東村山駅東口から、大踏切を渡って東村山駅西口まで行ったことがあります、本当に怖かったです。

我々も障害をお持ちの方がどんなことでお困り苦しんでいるかということを知っていく必要があると思います。そういう意味で市報等使ってぜひ障害をお持ちの状況ということ、広く市民に知らせなさいということですので、限られた紙面、発行回数で、どういう形になるかわかりませんが、今後できるだけ多くの市民に知っていただくように取り組みを進めていきたいと考えています。

子ども ～明日を拓く豊かな心と創造力を育てるまち～ について

◆ 小学生に対する教育理念について

(萩山町 Hさん)

子どもの教育についての市長の理念をお聞かせ願いたい。教育行政は大きな問題で、短時間で良い方向に持っていくことは難しいと思う。教育は学校並びに家庭のしつけまで、小学生の子ども教育は非常に大事だと思う。市内を歩いていた時に、通りかかった3・4年生ぐらいの子ども2組のグループに場所を尋ねたところ、学校では知らない人についていけないよということなのか2組とも、遠くに離れてしまった。人間の性格の形成される大事な時期だと思うので、市長の特に小学生教育に対する理念を伺いたい。

◎ 市長 ◎

教育理念、特に小学生のということですが、教育というのは基本的には役所の中では教育委員会が担っているわけですが、市長としても公約に教育について力を入れていきますということを掲げていますので、しっかり取り組んでいきたいと考えています。

東村山市の場合はひとつには、地域に根ざした教育ということを以前から取り組んでいます。土曜日が休みになっていますが、例えば琴や百人一首等、地域の方にいろいろなことを教えていただき様々な形で関わっていただいています。

もうひとつ有難いのは、特に萩山地域の場合は、それぞれの地域で子どもの登下校の見守りを行っていただいて、登校時に地域の方々がいろいろなところに立って、声かけをされています。子どもたちは、そういう場合は、きちんと「おはようございます。いってきます。」と地域の方と挨拶を交わしていますので、そういう点では比較的うまくいっているのではないかと考えています。いずれにしても子どもの教育というのは学校だけで完結するものではなく、ご指摘のように家庭も非常に重要です。ただ家庭の中までなかなか踏み込めないところもありますが、もうひとつ、地域全体で地域の子を育てていくという観点で、東村山特に萩山町に住んでいる子どもたちは私は非常に恵まれているのではないかと思います。そういうことが後々子ども達の生きる力に結びつく源になったり、人への接し方として思いやりの心を持ったりする大きなきっかけになるのではないかと思います。

今教育についてはいろいろ問題が言われていますが、ひとつは、今申し上げた情操的・徳育的な部分だけではなくて、体力が低下しつつあるということが強く指摘されています。これは、体を動かす機会が少なくなってしまったことや、遊びの形態も変わり、テレビゲーム、パソコンでの遊びというようなことが主流になってしまい、子どもたちがなかなか外遊びをしないというような問題が出てい

ます。そういうことが体力の低下につながったり、一人遊びばかりしていると社会性が育たないということもあるので、できるだけ子どもたちが元気で外で遊べるような取り組みも考えていかなければならないということで、まだ市内では一校だけですが、久米川東小学校には東京都の補助金を活用し、校庭の芝生化を進めさせていただきました。芝生を校庭に貼ると子どもたちが休み時間は外に出て、友達と校庭を駆け回ったりしてよく体を動かして遊ぶということが見られています。今、学校の施設面では耐震補強等を優先的に行っていますが、将来的には校庭の芝生化等を進めることで、子どもたちがより外で活発に遊ぶような取り組みも進めていければ、体力向上にも繋がるし、仲間と群れて遊ぶことにより社会性も育てられるのではないかと考えています。

子どもは国の宝・地域の宝ですので、学校まかせ、家庭まかせにするのではなく、行政としても学校・家庭・地域と連携を取りながら、この東村山で育って本当に良かったと、一生の生きる力になる、体力的にも知力的にも徳育的にも、その子の一生の財産になるようにこれからも努力していきたいと考えています。

◆子育ての環境に必要、まちのイベント

(萩山町 Mさん)

以前住んでいた東久留米市の滝山団地の自治会が非常に活発だった。滝山団地の夏祭りは、自治会・町内会・商店会の方等活発にやっている。子ども神輿もあり、小学生やもっと小さい子どもも参加している。団地は高齢化していて若い世代は少なくなっているが、その時期になると戻ってくる。活性化ということについて、お祭りというのは重要な意味を持っていると感じた。お祭りをきっかけにいろいろな繋がりができ、コミュニケーション等が培われてくる。参加することで、自分の世代、次の世代に広がっていく。参加できる場を広げていくというのは効果的だと思う。

◎ 市長 ◎

滝山団地の夏祭りは盛大ですね。イベントは一過性だということで批判もありますが、私は単にそういうことだけではなく、Mさんがおっしゃったように様々な効果を生み出す要因だろうと思っています。市としてもできるだけ地域の皆さんが活動されるときには、幾許かですが補助制度等もありますので、そういったものも活用していただいて、活発にやっていただければ有難いと思っています。

残念なのは久米川駅の南口で行われていた阿波踊りが昨年から止めてしまって、今年から復活してもらえるのかと思っていましたが、やはりこの経済不況で商店街の皆さんも、なかなか頑張りきれないということで、今年も行われなような寂しい状況です。代わりというわけではないですが、久米川駅北口が今度オープンするのに合わせて、今月の28日には久米川駅北口で結構盛大なイベントが行われると伺っています。広場のオープニングに合わせてということで、市も若干補助をさせていただいていますので、ぜひそういうところにもご参加していただければありがたいと思っています。

◆サンパルネに保育施設を

(萩山町 Hさん)

サンパルネの中に保育施設はできないか。お勤めしている人は、お子さんを駅に近い場所に、すつと預けられることが一番だと思う。子ども手当ては、どこかで一括して子育てに使ってほしいと私たちシニアの間でも話題になった。

◎ 市長 ◎

東村山駅西口の新しくできた再開発ビルの2階と3階部分に市の公共施設が入っており、そこをサンパルネと言っています。サンパルネの中に保育施設ができないのかというご提案です。そういったご意見は建設前からありました。ただ、再開発の議論としては、昔東村山駅西口というのは市内で一番賑わったところですが、駅前広場がないが故にどんどん寂れてしまい、それで駅前広場を造って賑わいを取り戻して行こうというのが基本的な考えでした。再開発ビルの中に、賑わいを作ろうということで、2階はコンベンションホールと集会施設と諸証明の発行窓口、3階は市民誰もが利用できる健康増進施設にしようということで、今の形態になっています。サンパルネは市が直接運営しているのではなく、東京ドームという会社に委託しており、フィットネスクラブの隣のお子さんの一時預かりの施設も東京ドームでやっていただいています。ただ、時間あたりの単価が高いので、ご利用いただけていないということなので、今後検討課題と捉えています。

それから、これは駅からは少し遠いですが、市としても一時預かりを、国の経済対策の交付金を活用し、スポーツセンターの中に一時預かりの場所を確保して始めました。国の補助金を使っているので無料で3時間お預かりしています。家庭で子育てされている方が預けられて、3時間くらいで家の片付けや、自分ひとりでお子さんを気にすることなく買物に行ったりしてリフレッシュできるということで、大変好評いただいています。それらも活用していただきたいと思っていますが、もうひとつは、ちゃんとした保育所は造るのにも、運営もお金がかかるので、市として計画しているのは、市役所の北東のところに、約100名定員規模の保育園を開設いただくということと、青葉町の東京都の北部医療センターの一番南西側に老人ホームがありましたが、そこを取り壊し、直接東京都が建てるわけではなく民間事業者を公募して、老人ホームと保育園を建て、100人定員くらいの認可保育園ができると思っています。

市では、青葉町の高齢全生園の中に保育園を設置していきたいと考えています。全生園はハンセン病の療養施設で、かつて我が国ではハンセン病にかかった人は強制的に施設に入れられて結婚は認められても生涯子どもを持つことは許されませんでした。そういうことで、あそこの施設にいらっしゃる方は身近なところで子どもたちの歓声を聞きたい、遊ぶ姿を日々見るような機会を得たいと強く念願され、市も待機児がいて困っているのだったら、全生園の中に保育所を誘致しようという運動をしていただいています。ただ全生園は国の施設で、そこに保育所を建てるとなると、様々な手続き上の問題、あるいは100人定員規模の保育所を造るのに年間1千万円くらいの地代を国に払わないとならず、とても保育園の経営が成り立たないので、国にまけてほしいというお願いを昨年からしているところです。認可保育園については、確かに駅前等便利なところがあればいいのですが、そういうわけにはいかなくて、市としては先ほど申し上げた3箇所について、進めていきたいと考えています。ただ良いご提案なのでサンパルネの中に一時預かりの保育施設をもう少し充実させるようなことを今後検討させていただければと考えています。

◆発達障害児の支援サポートの充実を

(恩多町 Mさん)

“東村山困っている子どもたちを応援する親の会”のメンバーである。先日議会を傍聴し、発達障害の啓蒙活動や、保護者のボランティアとしての対応について前向きなお返事をいただき嬉しく思っている。実際に現場では、先生方にいろいろな情報が届いていなかったり、先生だけではなく子ども達、回りの保護者の方達にも、きちんとした周知がなされないまま特別支援教育が進んでいる。そのことにより、先生方や回りの皆さんの間に困惑が生まれているように感じる。

保護者として何ができるのだろうかということのを会のメンバーとも考えているところである。支援の対策が置き去りにされている現象を、現場の方達も心を痛めて、でも成すすべもなく見守っているということを感じた。

ボーイスカウトでお世話になっているが、リーダーさんたちが発達障害の勉強会に参加し、子どもたちの指導の仕方を勉強してくれる。そういう動きがあるということだけでも、当事者にとっては励みになる。少しずつ構わないので具体的に現場の声をよく聞き、進めてほしいと思う。そのためには、市長の深く広い理解と強いリーダーシップが必要になってくると思うので、是非よろしく願いたい。

◎ 市長 ◎

発達障害の関係ですが、文部科学省の話ですと6%程度いらっしゃるというお話ですので、現状のサポーターの数は、今11人、22年度から2名増やし13名ということですが、それでもまだまだ足りないのは実態だと思っています。ただ市としては早期に小学校15校に配置するように努力をしたいと思っていますし、保護者の方を含めてボランティア等を活用させていただくということも取り組まないと、市の今の財政状況では、一人に一人ずつというような状況は難しいと考えていますので、今後検討したいと思っています。ボーイスカウトは発達障害のお子さんの率が非常に高いです。というのは、親御さんが心配されて、そういうところで活動しいろいろな体験をさせようということではないかと理解しています。我々も発達障害のお子さんにどういうふうに接していくべきなのかということの指摘を受けますが、市役所の職員や教育現場の先生方の研修をして理解を深めていくことが大事で、今後課題としていきたいと考えています。

政策等 ～市の将来像～ について

◆東村山が目指す ”イチバン”

(萩山町 Oさん)

住み始めてまだ1年経たないが、東村山市に根をおろすつもり。何でもかんでも1番は難しいと思うが、市として自慢できるようなところがあり、今考えていることがあれば教えていただきたい。

それから、歩きながらタバコを吸っている方が見受けられるが、取り組みがあれば聞かせてほしい。

◎ 市長 ◎

どういうまちを目指しているのか、要するに東村山市の“うり”ということですね。東村山市には都内唯一というものがあります。民設公園制度というのも、都内で萩山にしかありません。もうひとつ、都内で唯一の国宝があり、正福寺千体地藏堂という建物です。これは室町時代に建てられ、伝説では北条時宗が作ったといわれていますが、鎌倉の円覚寺より古いことが確認されています。

私が19年の選挙に出たとき、おこがましくも、3つ東京で1番になろうということを訴えさせていただきました。

そのひとつが、4年間で一番行財政改革を頑張ったまちになろうと呼びかけさせていただきました。東村山市は財政的には非常に厳しいまちです。そういう意味で、財政をしっかりとさせていかななくてはならないということが、私の大きな課題でした。そういう意味で、市長に就任して約3年の間、日々改革に取り組んできたと思っています。今、東村山市の市の職員の給与は20年に給与構造改革を行った関係で、村や町は除き都内で一番低いレベルになっています。職員の皆さんは都内で一番低い給与水準にも関わらず頑張っているということが言えるのではないかと思います。市役所の仕事はマンパワーが必要ですが、できるだけ少数精鋭で一人一人の職員の力量を高めていこうということで、私が市長になり職員が約80名純減しました。その分仕事を止めているわけではないので、民間委託をしたり、正職員から嘱託職員に切り替えたりと、そういう努力をしながら職員数の削減等も行ってきました。その結果、私が市長に就任したときの市の借金総額は713億9千万円あったのですが、20年度の決算では683億円で、約30億円ほど借金を減らすことができたと考えています。なかなかこういうことは、ランキングで表せることではないのですが、私のひとつの姿勢として、市長の4年間でどこまで改革して、しっかりした財政基盤を作れるかということについて、取り組みをしています。

もうひとつは、改革して切り詰めるだけではなくて、これからどんどん発信していこうということで、東村山地域ブランド力NO.1を目指そうと選挙のときに掲げさせていただきました。東村山市は志村けんさんの影響が大きく多摩地域では全国に名前が知られている市です。八国山という山があり、これは映画の“となりのトトロ”で、七国山病院というのが出てきますが、八国山の麓にある新山の手病院がモデルになったと言われています。それから、市内では大きな事業所はないのですが、食品関係の工場が結構ありまして、そのなかでソースを作っている会社が、黒焼きそばソースというのをブランド化しようとして取り組んでおられ、最近マスコミに注目を浴びるようになってきています。東村山市は外に向けて誇れるような歴史遺産とか、八国山のような自然もあります。そんなことで、少しずつでも東村山市の魅力を対外的にも発信し、市民の皆さんに誇りを持っていただきたいし、多くの方に東村山市って面白そうなまちだし、半日くらい散歩に行ってみようかといったようなまちをつかっていきたいと考えています。

もうひとつは教育の関係で、東村山市は学力向上で誇りにできるように頑張りたいと、教育や子育てに力を入れさせていただきました。市内の小中学校は老朽化していますが、施設面ではまず耐震補強をやっていこう、それから、情緒障害のお子さんが結構いらっしゃって、授業が成り立たないようなケースもありますので、そういうところには教員サポーター制度というのを立ち上げて、教員免許を持っている方を嘱託職員として雇用しました。情緒障害程度の重度のお子さんがいるクラスにはサポーターを入れて、ケアしながら授業が成り立つような取り組みをしています。まだ、全校まで配置はできていないのですが、あと1年任期がありますので、その間に全校配置して情緒障害のお子さんもきちんと楽しく学べるような環境を整えたいと思っています。

それから、22年度から大学と連携して、教員を目指している大学生・大学院生に、市内の中学生の勉強を見てもらおうという取り組みで、土曜スクールというのをモデル的に一校、来年度4月以降始めさせていただきたいと思っています。当市の教育委員に早稲田大学の人間科学部の教授がいらっしゃって、その方の伝手で早稲田と今話しを進めているところです。早稲田大学で将来教員になろうと思っている学生さんに、当市の中学生の学力に問題のあるような子は底上げをし、学力が進んでいる子については、さらなる支援をして伸ばし、学校の点数だけがもちろん学力ではありませんが、そういう意味で教育のほうもしっかりさせていくということで、ひとつの東村山市の魅力作りをしていきたいと考え、取り組みをさせていただいています。

それから、路上喫煙の問題ですが、当市はすでに条例があり、久米川駅周辺、東村山駅周辺、秋津・新秋津駅の間については、区域を設けタバコを吸うと罰金というエリアを指定をしています。一番ひどかった秋津・新秋津駅の間は、タバコを吸う人がほぼ100%とっていいほどいなくなりましたが、エリアを設けていないところについては、タバコを路上で吸いながら歩く方が見受けられます。基本的にはマナーの問題ですが、意識づけということで、エリアを今後拡大するのかどうか、また検討させていただきたいと考えています。

◆学校施設で高齢者の生活の知恵を学ぶ ◆東村山の水のおいしさPR

(萩山町 Oさん)

ネット中継は具体的なるのではないかと期待しているがまだなっていない。

学校の施設を開放し、生活の力を経験者から学ぶということを考えてほしいと思う。例えば家庭科の教室を開放し料理を作ったら、ご近所の方と一緒に食べるとか料理の仕方を教えてもらうとか、そういう使い方ができるのではないか。

東村山は非常に美味しい井戸水を使った食品産業が多い。東京都で一番という人もいるくらいの井戸水が出ている。一番を目指すのならそういうのを使ったらどうか。防災井戸も年に1回か2回ではなく汲みこんで、井戸を美味しいという視点で捉え発信すると考えたらどうか。

◎ 市長 ◎

議会のネット中継の関係は、22年度の予算に計上させていただき、22年12月定例会からネット中継を録画になりますが試行的に始めていこうと計画しています。

学校施設の開放については一定程度当市はすでにやっていると思います。高齢者の方に来ていただいて昔ながらの食材で献立を作ること子どもたちに指導するようなことがどこまでやられているかはわかりませんので、確認し良いご提案だと思しますので活かしていきたいと思います。先程申し上げた土曜講座も、やっていただいているのはほとんど地域の高齢者の方です。それが世代を離れた方々と交流することが子どもたちには刺激になっています。そこに料理を入れていくとか、そういうことが広げられるのか研究したいと思います。

井戸水の関係は、東村山市には造り酒屋さんが1軒あって、元々都内でやっていたのが、水がいいというので東村山に移ってこられたと聞いています。東村山の地下水は富士の高嶺に降り積もった雪

が溶けて地下水となって流れているものだそうです。水については当市には浄水場もあり、水という切り口で町をアピールすることは可能ではないかと思えます。今度水道水も浄水場の高度処理施設ができると、東京都の水道局がペットボトルに入れて売っている東京の美味しい水とほぼ同程度の水が各家庭に配水されるそうですから、水道も井戸も美味しいということですので、まさに水の都というようなことも言えるかもしれませんので、そこは今後の売り方を研究したいと思います。

都市整備 ～これからも住み続けたい快適で安全なまち～ について

◆道路工事後の舗装整備・歩道内の樹木

(萩山町 Uさん)

道路工事後、きれいだった道路がデコボコしてしまっているところが市内にもだいぶある。業者に指示し、きれいにしてもらおうようにできないものか。年を取るとちょっとしたことでも躓いて転び怪我をする可能性がある。それから、歩道の白線内に民家の植え込みが出ていて通れず、車道を通るようになる。この2点を何とかしてほしい。

◎ 市長 ◎

住宅が建設され、電気・ガス・水道の引き込みのときに、どうしても切り回し工事をやりますので、道路の一部をカットして、配管工事が終わった後アスファルトで舗装するわけですが、時間が経つと、周りの道路と段差ができてしまうということのご指摘だと思います。市としては、再三に渡って、道路が市道の場合は、道路管理者としてきちんと工事するように指導してきているつもりですが、どうしても長年の間に段差が生じてしまうことがあります。大規模な住宅開発の場合は一部分を切り取ってやるのではなく、道路全体を復旧するような指導をかなり強力にやっているつもりですが、そういうふうに行っているところもあるし、義務付けでなく費用がかかることなので、業者さんのほうは全面的に道路を舗装しなおすということをしなない場合もあります。市としてはこれからも、できるだけ、強力に指導させていただいて、市民の皆さんにご迷惑をかけないように努力をしたいと思えます。他市はどんな指導をしているのか、そこの確認もさせていただいた上で今後の対策を考えたいと思えます。

樹木の民地から道路へのはみ出し、越境枝の関係については、ご指摘いただいた場合は、役所からそのお宅に切っただけをお願いをしていますので、具体的にここで迷惑しているというところがあれば、お申し出いただければ対応させていただきたいと思えます。

*今回（第30回）は意見カードによるご意見聴取はありません。

○ 市長まとめ

長時間に亘りお付き合いいただきまして、誠にありがとうございました。冒頭申し上げましたように、3連休の初日ということで、お出かけをしようと考えていた方もいらっしゃると思いますが、ご出席いただいたことに対しまして、改めて感謝申し上げたいと思います。

いただいたご意見につきましては、対応できることについては精査し取り組んでまいりたいと思っています。市も大変厳しい状況ではありますが、市民の皆さんと協働協調しながら、少しでも良いまちづくりをしながら、東村山も大変素晴らしいところもいっぱいありますので、そういうところをうまく生かし、他市にも誇れるようなまちづくりにしていきたいと考えています。引き続き市民の皆さんのご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。本当に今日はありがとうございましたと感謝申し上げて、ご挨拶とさせていただきますたいと思います。また司会を務めていただきましたMさん、本当にありがとうございました。

お知らせ

平成22年度 市の組織が変更になりました。

- ※ 市民部市民協働課…市民協働に関する業務を市民生活課に移管し、新たに「市民協働課」としました。
- ※ 市民部生活文化課…市民生活課市民相談係を国際・男女共同参画課に移管することで相談部門の一元化を図り、新たに「生活文化課」としました。
- ※ 資源循環部計画担当主幹…廃棄物処理基本計画やリサイクルセンターの建設計画を見据え、新たに「計画担当主幹」を新設しました。
- ※ 都市環境部道路課、交通課…市のコミュニティバスや駐輪場事業等の交通事業を所管する道路・交通課を分離し、「道路課」と、交通対策の強化等を担当する「交通課」としました。特に懸案であったコミバスや駐輪場事業等の交通事業について道路・交通課を分離し、道路課と交通対策強化で「交通課」といたしました。
- ※ 教育部国体準備室…平成25年度に開催が予定されている多摩国民体育大会へ向けて、「国体準備室」を新設しました。

市民と市長の対話集会
第30回
タウンミーティング記録集

発行 平成22年4月
東村山市役所 市民部市民協働課
東京都東村山市本町1丁目2番地3
TEL 042(393)5111
(内線 2563、2564)